

# NEWS レター

一般財団法人 ゆうちょ財団  
国際ボランティア支援事業部

NGO 活動紹介 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

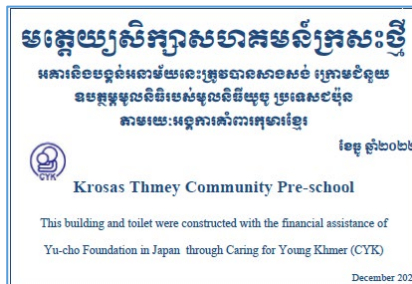
## カンボジアに充実した幼児教育を！

カンボジアでは、ポルポト政権や内戦によって教育の施設や人材が壊滅的な状態となり、内戦終結後にゼロから再建する必要があります。さらに、カンボジアは現在でも貧困が深刻な問題となっており、このような再建を妨げています。特に、農村部では幼稚園のない村が多く、幼児期に質の高い教育とケアを受ける機会のない子どもたちが多数存在しています。

特定非営利活動法人「幼い難民を考える会」は、こうした子どもたちの権利が満たされていない状況を改善するため、カンボジアの中でも幼稚園に通えていない子どもの割合が高いコンポanchun州を中心に、1. 幼稚園の開設・運営管理、2. 保育者の育成、3. 保育教材の開発・制作・提供などの活動をおこなっています。そして、毎年約 10 カ所の「村の幼稚園」を設立・運営し、2～3 カ所を地域に移管しています。

ゆうちょ財団では、2019 年度から毎年度、同会の活動に対して助成を行ってきました。2022 年度はこの助成の一環でクロサス・トゥメイ村に新たな幼稚園を開設しました(写真 2)。2023 年度にはすでに 2 年目に入っている村と、2020 年度に開設された 3 年目の幼稚園を合わせて運営を支援しています。

ゆうちょ財団では、このたび、同会の副代表理事の関口晴美さんにこうした活動についてインタビューしました。



(訳) クロサス・トゥメイ地域  
幼稚園

この建物とトイレは、幼い難民を考える会(CYK)を通じ、日本のゆうちょ財団の資金援助により建設されました。

2022 年 12 月

(写真 1) 完成した園舎に取り付けられたゆうちょ財団の名前のプレート



(写真 2) ゆうちょ財団の助成により完成したクロサス・トゥメイ村の新たな幼稚園の園舎



(写真 3) 2019 年度助成で日本の絵本を翻訳して出版された絵本教材「およぐ」と「まめ」



(写真 4) 絵本を楽しむ子どもたち

——幼い難民を考える会の発足は 1980 年代と聞いていますが、**そもそも幼児教育に着眼したきっかけ**を教えてください。

**関口さん**：1979 年当時、カンボジア内戦による難民が大量に流出しました。同年秋、当団体の設立代表者がタイ国境の難民キャンプに入り、生きる権利さえ危うくされた子どもたちの様子を目の当たりにして、この子たちが適切なケアを受け少しでも人間らしい生活ができるように帰国後世論に訴えたのがはじまりです。当時、設立代表者が保育者の養成コースに関わっていたため子どもへの特別な思いをもった人たちが中心となって会が設立され、保育者とともに遊具を難民キャンプに届けたのが最初の活動です。

(表 1) 特定非営利活動法人幼い難民を考える会への助成概要

年度	活動名
2019	「村の幼稚園」事業 絵本の出版・研修配布
2020	就学前教育の充実のための保育教材研修・配布プログラム 質の高い就学前教育の普及
2021	地域幼稚園への保育教材研修と配布
2022	新規「村の幼稚園」園舎・トイレ建設と保育者の研修事業
2023	自立運営を目指す「村の幼稚園」2 年目、3 年目の運営事業

——当初は、教材となるものがほとんどなかったため、2019 年度の助成活動では日本で出版された絵本をクメール語(カンボジア語)に翻訳されています(写真 3)が、**クメール語の教材の充実**にどのように取り組んで来られたのでしょうか。

**関口さん**：内戦の時以降、本とか読むものが全くなくなってしまったので、私どもの会が難民キャンプで活動を始めた時、ユネスコアジア文化センターにあったクメール語の蔵書 11 冊を復刻してキャンプの中で使わせていただいたことが最初でした。その後、子どもたちがよく歌う歌や昔から地域で歌われてきた歌を集めて歌絵本を作り、歌を吹き込んだテープとともに全国の幼稚園で研修に使ったり、お配りしたこともあります。カンボジアの絵描きさんに絵を描いてもらって、それで言葉といっしょにして小さな文字絵本を作り、保育教材の充実をはかってきました。日本の絵本を 13 冊クメール語に翻訳してお配りしましたが、これは科学的な視点を育むヒントになるのではないかという考えによるものです。

ゆうちょ財団から助成をいただいた当時、「およぐ」「まめ」(写真 3)「バナナのはなし」「みんな おなじ でも みんな ちがう」という 4 冊の本を同時期に出版しました。それらの本は地域幼稚園と、それからコンポンチュナン州の公立幼稚園にお配りしました。



(写真5) クロサス・トゥメイ村の幼稚園のモニタリング研修の様子  
(右側奥) 藤川祥子代表理事 (周囲の人々は保育者及び団体現地事務所スタッフ等)

——ハード、ソフト、人材、運営支援と、多方面にわたってカンボジアの幼児教育の充実に取り組んでおられますが、**幼児教育の分野で日本との違い**を考えて配慮したことはありますか。

**関口さん**：カンボジアの内戦前には都市部には幼稚園はあったのかも知れませんが、農村部にはなかったと思います。それで、保護者にも保育者にも幼児教育を受けた人がいないので、幼児教育の意味を小学校に入る準備のため勉強させるところと考えていた人が多かったように思います。つまり、0歳から5歳までの精神・身体面の様々なケアの重要性や、子どもが周りを認知して遊びながらいろんなことを学んでいくという幼児教育独自の重要性があまり理解されていなかったようです。最近ようやくこういう重要性についても理解が進んできています。

また、保健衛生面には配慮しました。当初は家にトイレもない家庭が多くあったので、手洗いやトイレの使い方の指導とか、飲み水は一度沸かした水を使うとかですね。ゴミとかをその辺散らかさないですとか、素足の子どもが多かったので、草履を履いて来てくださ、教室に入るときはそれ脱ぎましょうとか、習慣づけを行いました。

——幼い難民を考える会が幼稚園の運営支援を行う期間は3年間に限っており、4年目以降は地域が幼稚園の運営を引き継げるようにする方針で支援にあたっているとのこと。**地域への引継ぎの時期を控えた幼稚園の運営支援**ですが、スムーズな引継ぎを実現するにあたり重要なポイントは何ですか。

**関口さん**：まさにゆうちょ財団からの23年度助成で今取り組んでいる活動についてですが、私はポイントは三つあると思います。

一つ目は、保育者が保育スキルを身につけて、仕事に誇りと自信を持ってやりがいを感じて仕事を続けていけるようにすることです。

つまり、保育の教育を受けたことのない村の女性に具体的に学ぶ機会を提供します。幼稚園の開所前に約一か月程度基本的な研修を受けてもらい、実際に保育に携わるようになった後でも、月に一度当会がモニタリングをして実にきめ細かく指導をします(写真5)。保育者に渡す給料を確保する仕組み作りにはかつて大変苦労しましたが、近年は地区評議会が予算を確保しているので、この負担はなくなりました。

二つ目は、幼稚園が子どもたちにとって楽しく学べ遊べる環境作り——友達もできるし、いろいろなことができる場所を作ることです。掃除が行き届き綺麗に整頓されていることも重要ですね。

三つ目は、保護者や地域の人々の協力体制づくりです。私どもの会はこのために必ず幼稚園に運営委員会というものを作ります。メンバーには地区評議会の代表者や女性・子どもの担当者、村長をはじめ地域の主だった役割の人に加わってもらい、保護者代表が入っていることもあります。この運営委員会のコアメンバーに、運営委員会の役割と実際に必要とされている活動を認識するための研修を受けてもらいます。給食やおやつなどをどうするか、幼稚園で困ったことがないか、外遊具が足りないんだったら作ろうかなどと話し合ったり、他の地域の幼稚園の運営委員会の活動を参考にすることもあります。

——最後に、幼稚園の運営支援について、**「幼い難民を考える会」のこれから目指す方向**を教えてください。

**関口さん**：管轄の州や郡の体制や地区評議会の幼稚園への予算などの環境が少しずつ良くなってきています。これまで支援してきた地域で自主運営を継続している24園の幼稚園では運営が安定してきている様子が伺えます。就学前教育の大切さも理解されてきています、そのため2023年度は助成いただいている事業を今まで通り実施し、2024年度から私たちの会の事業を州政府に移管することにしました。事業の締めくくりになる2024年度には全国の地域幼稚園の保育者のためのマニュアル作りを計画しています。

——関口さん、ありがとうございました。



(写真6) クロサス・トゥメイ村の幼稚園でのクラスの様子

## 2023 年度 NGO 海外活動助成ウクライナ避難民支援特別枠採択の決定

ゆうちょ財団においては、2022 年度において、これまで行ってきた NGO 海外援助活動助成にウクライナ避難民支援特別枠を設けて避難民支援を行う団体に助成を行いました。引き続き 2023 年度においても申請を募集し、提出された申請について厳正な審査を行った結果、次の 4 件を採択することと決定いたしました。概要は以下のとおりです。

	団体名	活動国	活動名	助成予定額(円)
1	外国人女性の会パルヨン	日本	ウクライナからの避難民に対する専門家による母語での心理的支援事業	2,000,000
2	【特定非営利活動法人】 グッドネーバース・ジャパン	ルーマニア	ウクライナ難民の孤児院の子どもたちへの給食の提供事業	2,000,000
3	【特定非営利活動法人】 テラ・ルネッサンス	ハンガリー	避難先への移動支援および避難民の生活支援	1,030,000
4	【一般社団法人】 ピースボート災害支援センター	ルーマニア	避難民支援センター「ドブラ・ハタ」における物資支援事業	1,958,440

こうした支援が多くの人々の生活の支えになることを期待しています。

### 編集後記

今回は「特定非営利活動法人幼い難民を考える会」の取組みを紹介するとともに、本年 8 月に公表したウクライナ避難民支援特別枠採択の決定を取り上げてお知らせしました。今後も、様々な地域における特色ある取り組みやタイムリーなトピックを取り上げてご紹介していきたいと考えています。

一般財団法人 ゆうちょ財団 国際ボランティア支援事業部